

RETAILER ACADEMY NEWS

Dec 2018 | Bentley Motors Japan

NEW MODEL

新型コンチネンタルGT コンバーチブル発表



ベントレー モーターズは11月26日、3代目となる新型コンチネンタルGTコンバーチブルを発表しました。ベントレーがクルー工場で設計し手作業で仕上げ、世界で最もスタイリッシュかつエレガントなグランドツアラーを作ることは誰もが知るところですが、コンチネンタルGTコンバーチブルは、ラグジュアリーブランドの真髄と言えるでしょう。

過

去100年間、ベントレーはグランドツーリングの世界の頂点に君臨してきました。新型コンチネンタルGTコンバーチブルは、これまで築いてきたエレガントさとパワーという特徴を前面に出したモデルです。コンチネンタルGTと同じように、息を飲むほど素晴らしいスタイリングを共有するコンバーチブルは、オープンエアのグランドツーリングの爽快感を、新たな高みに引き上げる存在です。

6.0リッター W12 TSIエンジンと8速デュアルクラッチトランスミッション (DCT) は、俊敏さと爽快な走りを提供。革新的なテクノロジーと組み合わせたクラフトマンシップは、ルーフの開閉状態にかかわらず、真のラグジュアリーな快適さをもたらします。

この最新世代のグランドツアラーは、より引き締まって、より低く、よりワイドな外観に加え、よりダイナミックな存在感も加わった全て

にバランスのとれたクルマです。彫刻のようなアルミニウム製のボディはシャープなエッジが際立っており、デザイナーがインテリアとエクステリアの調和をとるために力を注いだ様子を見取することができます。ルーフを開いていても、コンチネンタルGTコンバーチブルはベントレーのスタイリングを保ったままです。美しいデザインのラインが、サイドパネルからリアシートを通り、もう一方のサイドパネルまで1本の流れるような曲線でつながっています。

屋外の天候がどうであれ、移動中の車内を最適な温度に保てるため、乗員はウッドパネルと上質なレザーシートにより、まるで自宅にいるかのように快適に過ごすことができます。シートにエレガントに組み込まれたネックウォーマーは、ドライバーと助手席の乗員を暖かい空気で包み込みます。つまり、寒い季節でもオープントップのまま高速ドライブを楽しむことができるのです。



4層から成るルーフを閉じると、コンチネンタルGTコンバーチブルは洗練された流線型のクーペへと変わります。ルーフ生地を選択肢を増やしたことで、クルマをパーソナライズする幅も広がりました。ルーフ生地を選択肢には、新たにツイードを採用しています。

新型コンチネンタルGTコンバーチブルの発表にあたって、ベントレーモーターズのエイドリアン・ホールマーク会長兼CEOは、「控えめなエレガントさにもかかわらず人目を引き、工学的な素晴らしさには目を見張るものがあります。新型コンチネンタルGTの幅広く使える性能はユニークで、私たちの素晴らしいブランドによってのみ提供できるものです」などとコメントしています。ホールマーク会長はまた、「1919年の創業以来、私たちはラグジュアリー グランドツアラーを作り続けてきました。間もなく100周年を迎えるにあたって、コンチネンタルGTコンバーチブルは、1つのラグジュアリーブランドが作る最も強く最も技術的に進んだ製品ラインアップの1つとなるのです」などと、100周年に絡めて話しました。



新型コンチネンタル GT コンバーチブルの 特徴



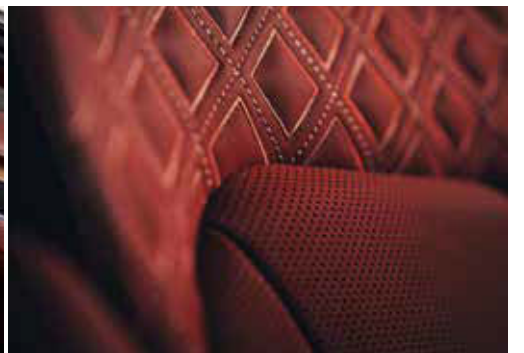
全体的な特徴

エクステリアでは、クーペと同様に2代目よりもホイールベースを135mm伸ばしたことで、ロングノーズの低く構えたスタイリングを実現。LEDマトリックスヘッドランプや、クリスタルガラスのカット技術からヒントを得たヘッドランプカバーも装備しています。ホイールは21インチ5トリプルスポークアロイ・ホイールを標準装備。10スポークと5オープンスポークの22インチアロイホイールをオプション設定しています。

インテリアも基本的な仕様はクーペと同じ。フルデジタルメーターパネルやローテーションディスプレイはもちろん、ダイヤモンド イン ダイヤモンド キルティングやコート・ド・ジュネーブといったオプションも設定しています。

エンジンはクーペと同じ6.0リッター W12 ツインターボエンジンで、最高出力635PS、最大トルク900Nmを発揮。0-100km/h加速は3.8

秒、最高速度は333km/hです。また、先代モデルと比べて20%の軽量化を実現しつつ、ボディ剛性は5%向上させました。48V電装によるベントレー ダイナミックライドも装備。動的な質感が大幅にアップしています。



新型コンチネンタル GTの特徴的な装備

4層のルーフ

4層から成るルーフの開閉はわずか19秒で完了。50km/hまでであれば、走行中でも開閉が可能です。新しい遮音材の採用で、車内騒音は先代モデルより3デシベル低減。ルーフは優れた断熱性能を提供するよう設計されているため、クーペのように空調の性能を生かして快適な車内温度を実現します。

ルーフはZ型に折りたたんでコンパクトに収納されるため、トノカバーを薄型に設計することができました。これにより、サイドからぐるりと囲むようなデザインラインが付いています。このユニークな外観と仕上げの手法は、非常にスタイリッシュでベントレーの細部へのこだわりをよく表しています。

ルーフのカラーは、標準仕様ではブラック、ブルー、グレーの3色からお選びいただけます。有償オプションとして、ダークブラウン、ダークグレーメタリック、クラレット、ツイードの4種類を用意しました。新採用となったツイード生地 of the ルーフは、質感と全体的な印象を大きく変えるもので、スタイリッシュさが際立つワンランク上の存在となります。なお、ルーフの室内側のカラーも8種類（マグノリア、キャメル、ライトグレー、グレー、ブルー、サドル、ペルーガ、ニューレッド）から選択可能です。



ネックウォーマー

フロントシートにエレガントに組み込まれたネックウォーマーは、吹き出す暖気の流れを最適化する位置に設置され、3段階のパワーレベルで調節可能です。ドライバーと助手席乗員の首と肩の周囲に暖かい空気を送り、低い気温での高速走行時もオープントップでドライブを楽しめます。ネックウォーマーは先代モデルよりも暖かく、より静かになりました。吹き出し口のデザインはベントレー伝統のブルズアイイベントを応用したもので、クロームで仕上げています。



アームレストヒーター

外気温が低いときでも、ドアのアームレストとセンターコンソールのアームレストがヒーターで暖められるため、寒いときでもオープントップで運転を楽しめます。ステアリングヒーターと合わせて使うと、より一層快適性がアップします。



シートベンチレーター

暑い季節に役立つのが、シートベンチレーターです。運転席と助手席に装備され、ファンによって空気が送り出されることで背中と腿裏を冷却し、快適なドライブをサポートします。



競合ブランドの オープントップモデル

さる11月26日に本国で発表された新型コンチネンタル GT コンバーチブル。オープントップの最高峰グランド ツアラーが第三世代に生まれ変わりました。

そこで今回は、新型コンチネンタル GT コンバーチブルと同じカテゴリーに属する、競合ブランドの4人乗りコンバーチブルモデルを改めてご紹介します。

メルセデス・ベンツ Sクラス カブリオレ



マーケットポジションにおいて直接競合するモデルです。特に12気筒エンジンを搭載するメルセデス AMG S 65 カブリオレは、パフォーマンス上もっとも近い存在です。搭載されるエンジンは6.0L V型12気筒ツインターボで、最高出力630ps、最大トルク1000Nmと、新型コンチネンタル GT コンバーチブルとほぼ同等。動力性能ではベントレーのほうが上回ります。

S 65 カブリオレは後輪駆動のため、駆動方式でいえば、4.0L V8ツインターボエンジンにトルク可変型4輪駆動システムを組み合わせたメルセデス AMG S 63 4MATIC+ カブリオレも競合といえます。



セールスポイントは、高度な安全運転支援システムの「インテリジェントドライブ」が標準で備わること。コンバーチブル専用装備としては、走行時に風の巻き込みを抑える「エアキャップ」、ヘッドレスト下部から首に温風を当てる「エアスカーフ」を全車に装備しています。

一方で、内外装のカラーやインテリアトリムなどの選択肢は決して豊富ではありません。ソフトトップのカラーは4色から選べますが、内装色の選択肢が7種類しかなく、ソフトトップとのコンビネーションにおいてやや制限があります。自分好みの1台をつくるという意味ではベントレーに及びません。

BMW 8シリーズ コンバーチブル



BMWにおける競合モデルは、2018年11月に本国で発表された8シリーズ コンバーチブルです。日本では2018年11月にBMW 8シリーズ クーペの発売を開始したばかりで、8シリーズ コンバーチブルの発売は欧州で2019年3月を予定。日本でも2019年中には導入されると予想されます。

エンジンは、最高出力530ps、最大トルク750Nmを発揮する4.4L V8ツインターボガソリンエンジンと、最高出力320ps、最大トルク680Nmの3L 直6ディーゼルターボの2種類が設定され、駆動方式

はどちらも4輪駆動。日本市場には、クーペと同様にV8エンジンのみの導入が予想されます。



ルーフはソフトトップ式で、50km/h以下であれば走行中も開閉可能。ソフトトップのカラーは2色用意されます。カブリオレ専用装備としては、メルセデスと同様に、ヘッドレスト下部から首に温風を当てるネックウォーマーがオプションで用意されます。ちなみに走行風の巻き込みを抑えるウィンドディフレクターは、前席の背後に装着するタイプ。これを装着した場合は後席に乗車することができないデメリットがあります。

内外装のカスタマイズについては、BMW Individual プログラムが用意される可能性が高いため、比較的自由度の高いオーダーメイドが可能と思われる。

ロールス・ロイス ドーン



ロールス・ロイス ドーンは、オープントップモデルでありながら、フル4シーターとしての快適性を追求しています。ソフトトップ開閉時の音を徹底して抑えることで優雅な所作を実現するあたりに同社のこだわりが感じられます。エクステリアは、クーペモデル「レイス」を単にオープン化したモデルではなく、エクステリアの80%のパネルが新たにデザインされたもの。リアのデッキ部分にはウッドパネルが贅沢にあらわれ、優雅な雰囲気を出しています。



エンジンは6.6L V12ツインターボ。最高出力570ps、最大トルク820Nmという数字はベントレーには及びません。しかし、ブラックを基調にした内外装が特徴の「ドーン ブラック・パッケージ」では最高出力601ps、最大トルク840Nmとなり、侮れない存在となります。

同社はビスポークを積極的に打ち出しているため、カスタマイズの自由度はベントレーと同等。その意味でも非常に強力な存在といえます。

アストン・マーティン DB11 ヴォランテ



アストン・マーティンの2+2クーペ「DB11」をオープントップにしたモデルがDB11 ヴォランテ。クーペのDB11にはV12ツインターボとV8ツインターボの2種類のエンジンが設定されるのに対して、DB11 ヴォランテはV8エンジンのみ。とはいえ、最高出力510ps、最大トルク675Nmという数字は、このカテゴリーのスポーツカーとしては十分以上のスペックといえます。



8層構造のソフトトップは遮音性や耐候性に優れ、開閉時間はオープンには16秒、クローズでは14秒という短さ。50km/h以下であれば走行中も操作可能です。ただ、後席の居住スペースは限られるため、フル4シーターのような快適性は望めません。

カスタマイズについては、同社には専用のカスタマイズプログラム「Q BY ASTON MARTIN」が用意されているため、自分好みの1台をつくるができます。

フェラーリ ボルトフィーノ



フェラーリが現在ラインアップしている4人乗りのオープントップモデルがボルトフィーノ。前モデルであるカリフォルニアTをベースとしながら、大幅な改良を加えたモデルです。エンジンは3.9L V8ツインターボエンジンで、最高出力560ps、最大トルク755Nmを発揮。0-100km/h加速3.5秒、最高速度320km/h以上という動力性能は、スポーツカーとして申し分ない内容です。また、このクラスの4シーターコンバーチブルとしては唯一となる、リトラクタブル・ハードトップも特徴のひとつです。



ただ、このクラスで使われるソフトトップは、近年、多層化構造により遮音性や耐候性が高められたため、以前のような絶対的な優位性がないのも事実。そもそもこのクラスのオープントップモデルを購入するユーザーは、車両を複数台所有するケースが多く、雨の日にわざわざオープンカーに乗る必要がありません。クローズ時のボディ剛性にこだわらない限り、あえてリトラクタブル・ハードトップを選ぶ意義は薄いといつてよいでしょう。

このように、個性豊かな競合モデルが揃うラグジュアリー4シーターコンバーチブル市場。そのなかでも新型コンチネンタル GT コンバーチブルは、ラグジュアリー性とスポーツ性、快適性のバランスが整っており、大きな優位性を備えたモデルとなっています。

COMPETITORS INFORMATION



| | |
|---------------|--|
| ニューモデル | BMW 8シリーズ クーペ |
| 発表・発売日 | 2018年11月9日 発売 |
| 概要 | ・美しさと速さの新次元を謳う同社の新たなラグジュアリー・クーペ ・530psを発揮する4.4L V8ツインターボ・エンジンを搭載。 0-100km/h加速は3.7秒 ・後輪を重視して調整された4輪駆動システムxDriveを搭載 |
| 車両価格 (税込) | BMW M850i xDrive：17,140,000円 |
| デリバリー 開始時期 | — |



| | |
|---------------|---|
| ニューモデル | ポルシェ パナメーラGTS / パナメーラGTSスポーツツーリスモ |
| 発表・発売日 | 2018年11月21日 予約受注開始 |
| 概要 | ・最高出力460ps、最大トルク620Nmを発生する4.0L V8ツインターボエンジンを搭載。 ・通常モデルより車高が10mm低いスポーツシャシーと3チャンバーエアサスペンションを採用 ・多くのエリアにブラックコントラスト仕上げを施し、精悍さを増したエクステリア |
| 車両価格 (税込) | パナメーラ GTS：18,970,000円 パナメーラ GTS スポーツツーリスモ：19,350,000円 |
| デリバリー 開始時期 | — |



| | |
|---------------|--|
| 一部改良 | ホンダ NSX |
| 発表・発売日 | 2018年10月25日 購入申込開始 |
| 概要 | ・新開発の専用タイヤ、サスペンション各部の見直しなどにより、ダイナミクス性能を進化 ・走行シーンに応じて車両特性を選択できる走行モードの制御を最適化 ・ディテール変更による外観の質感を向上、内外装に新色を追加 |
| 車両価格 (税込) | NSX：23,700,000円 |
| デリバリー 開始時期 | — |



| | |
|---------------|---|
| ニューモデル | アルファ・ロメオ ステルヴィオ クアドリフォリオ |
| 発表・発売日 | 2018年11月28日 受注開始 |
| 概要 | ・ドイツ・ニュルブルクリンク北コースにおいて、量産SUV世界最速タイムを樹立したモデル ・最高出力510ps、最大トルク600Nmを発生する2.9L V6ツインターボエンジンを搭載 ・0-100km/h加速3.8秒、最高速度283km/hのパフォーマンス |
| 車両価格 (税込) | ステルヴィオ・クアドリフォリオ：11,670,000円 |
| デリバリー 開始時期 | — |



| | |
|---------------|--|
| ニューモデル | マセラティ レヴァンテ 2019年モデル |
| 発表・発売日 | 2018年11月23日 発表 |
| 概要 | ・V8エンジンを搭載したレヴァンテ トロフェオ、レヴァンテ GTSを追加 ・レヴァンテ トロフェオは、0-100 km/h加速3.9 秒、最高速度304 km/h ・レヴァンテ GTSは、0-100 km/h加速4.2 秒、最高速度292 km/h |
| 車両価格 (税込) | レヴァンテ トロフェオ：19,900,000円 レヴァンテ GTS：18,000,000円 |
| デリバリー 開始時期 | — |



| | |
|---------------|---|
| ニューモデル | ポルシェ マカン |
| 発表・発売日 | 2018年11月2日 予約受注開始 |
| 概要 | ・10月のパリ・モーターショーで発表されたマカンのエントリーモデル ・最高出力245ps、最大トルク370Nmを発生する2.0L 4気筒ターボエンジンを搭載 ・装備を充実させたファーストエディションとシュボルトエディションからデリバリーを開始 |
| 車両価格 (税込) | マカン：6,990,000円 マカン ファーストエディション：8,892,000円～9,326,000円 マカン シュボルトエディション：9,164,000円～9,598,000円 |
| デリバリー 開始時期 | — |

MOTOR SPORT

2019年のモータースポーツは
さらに多くの耐久レース参戦へ

ベントレー モーターズは、2019年のブランパンGTシリーズの耐久カップとインターナショナルGTチャレンジの両方に参戦し、シーズン最長にして最大のレースでもあるスパ・フランコルシャン24時間レースのブロクラスに4台をエントリーさせる方針を発表しました。

ワークスチームであるベントレー・チームMスポーツは、2代目コンチネンタルGT3の投入初年度を成功裏に終えられたことで、2019年はこのレースカーと6人のチームドライバーとともに、世界最高レベルのGT選手権で総合優勝を目指します。スパ24時間では、チームはブロクラスにもう2台の投入を予定しており、ドライバーは追って発表されます。

2018年シーズンを戦った6人のワークスドライバーは、2019年もそのまま残留します。ヴィンセント・アブリル（モナコ）、ジュール・ゲノン（フランス）、スティーヴン・ケイン（英国）、ジョーダン・ペツパー（南アフリカ）、アンディ・ソーセック（スペイン）、マクシム・スーレ（ベルギー）の6人はベントレー・チームMスポーツのドライバーとして戦うほか、ベントレーのグローバルチームとしてもレースに参戦する予定です。

拡大されたプログラムでは、ブランパン・スプリントシリーズでチャンピオンとなったことのあるヴィンセント・



アブリルや、ベントレー・チームABT出身のジョーダン・ペツパーらに次ぐようなドライバーの育成を目指し、ベントレーがカスタマーチームのドライバーを中央のチームに昇進させるという伝統を継承することも確認されています。

そして2019年のインターナショナルGTチャレンジの第4戦は、鈴鹿サーキットで8月23～25日に開催されます。タイトル獲得を目指すベントレー・チームMスポーツに、熱い声援をお願いします！



2018年にコンチネンタルGTが 19の賞を受賞！

世界有数のグランドツアラーであるコンチネンタルGTは、2018年に19もの賞を受賞しました。発表されたのはわずか1年ほど前ですが、第3世代のコンチネンタルGTは、スーパーカーと同等の性能と、リムジンのような洗練されたラグジュアリーさを組み合わせた、卓越したグランドツアラーとして高い評価を受けたのです。ホームである英国はもちろん、中国やドイツ、ロシアなど世界中のメディアや団体が主宰する賞も獲得。国際的な認知度が大きく向上した1年となりました。ベントレー モーターズのエイドリアン・ホールマーク会長兼CEOは、「世界中のエキスパートたちが、ベントレーが最高のグランドツアラーを作ったことを認めており、そのようなハイレベルの認知度を獲得できたことを嬉しく思います」などと喜びを語っています。

■ 各メディア・団体の評価

“ ベントレーの挑戦は、ハイテクと最上級のラグジュアリーが交差するスイートスポットを探ることだった。そしてこのチャレンジは成功した。”
(『GQ』誌)

“ 多くのスポーツカーと異なり、ドライブを開始したときと同じようにリラックスした気分で目的地に到着する。” (News UK Motors Award)

“ 単純にこの地球上で最も完成されたGTカーだ。” (英国BBC『Top Gear』)



■ コンチネンタルGTの2018年の受賞一覧

| 主宰メディア・団体 | アワード名 | 国 |
|--------------------------------------|---------------------------------|-------|
| British GQ | ベストインテリア (エクステリアも加味) | 英国 |
| News UK Motors Award | ラグジュアリーカー・オブ・ザ・イヤー | |
| Sohu Auto | グランドツアラー・オブ・ザ・イヤー 2017 | 中国 |
| Global Times | イノバートプロダクト・オブ・ザ・イヤー 2017 | |
| Men's Uno | ベストカー・オブ・ザ・イヤー 2018 | フランス |
| Trophées de l'Argus | デザイン部門 | |
| Coyote Automobile Awards | デザイン部門 | ドイツ |
| Festival AutomobileInternational | デザイン部門 | |
| Sportscars of the Year - Autozeitung | ベストGT | ドイツ |
| German Design Awards | エクステリア プレミアム ブランド | |
| German Design Awards | ベストインテリア | ポルトガル |
| OBSERVADOR | ベストスポーツカー | |
| Turbo | ベストスポーツカー | ルーマニア |
| Essilor Car of the Year | ベストスポーツカー | |
| Auto Pro 2018 | ベストラグジュアリーカー | ロシア |
| Prime Traveller | ベストグランドツアラー for トラベリング in ヨーロッパ | スイス |
| Best Cars (Auto Illustrierte) | ベストラグジュアリーカー 2019 | ベトナム |
| Robb Report Vietnam | トップ10 ベストカー | |



APPEARANCE

セールスパーソンの身だしなみ — ネクタイ編 —



これまでビジネスシーンにおけるスーツやシャツ、ビジネスシューズについて解説してきましたが、今回はネクタイ編です。首元は顔よりも見られる機会が多いなどと言われるように、ネクタイの結び方ひとつで相手に与える印象は大きく変わります。せっかく選んだスーツやシャツを台無しにしないためにも、ビジネスシーンにマッチするネクタイの結び方をご紹介します。

■ ディンプルについて

ネクタイの結び目に作るくぼみを「ディンプル」と呼びます。中央部にくぼみを1つ作るのがディンプルの主流ですが、2カ所にくぼみを作る「ダブルディンプル」もあります。ネクタイにアクセントがついておしゃれに見えるという効果はありますが、ディンプルの有無がビジネス上で問題になることはありません。ただし、弔事ではディンプルがNGであることは覚えておきましょう。



プレーンノット

初めてネクタイをする際に覚える基本の結び方です。一般的にレギュラーカラーシャツとの相性が良く、ビジネスシーンだけでなく慶事や弔事など、あらゆるシーンで活用できる結び方です。ただし、締めすぎるとノットが小さくなってしまい、バランスの悪い見栄えになるので注意が必要です。



ウィンザーノット

オーソドックスな英国式スタイルの結び方です。スーツが英国式であれば、ウィンザーノットを合わせるのが自然でしょう。ノットが正三角形に近い形状になるのが最大の特徴です。相手に自分を印象づけたいシーンでお勧めの結び方なので、大事な商談の際に活用するとよいでしょう。



セミウィンザーノット

ウィンザーノットではノットが大きすぎると感じる場合や、厚手のネクタイを結ぶ際に適しています。ワイドカラーシャツとの相性は抜群で、首元に程よいボリュームが出るので相手にインパクトを与えますが、きっちりした印象にもなるため、ビジネスシーンでも活躍する結び方です。



ダブルノット

ノットが縦長になるのが特徴で、ビジネス・フォーマルで使えます。さまざまな襟の形状にもよく合うほか、近年流行している細身のシルエットのスーツにもマッチします。ただし、結び目が大きくなるので、幅広や厚手のネクタイではなく、細身のネクタイを着用する際に使うとよいでしょう。

コンバーチブルを支えるテクノロジー

コンチネンタルGTの新しい兄弟として、最高峰グランドツアラーであるコンチネンタルGTコンバーチブルが登場しました。
今回は、ソフトトップのコンバーチブルを支えるための技術を紹介します。



ソフトトップである理由と特徴

コンチネンタルGTコンバーチブルのルーフは、ファブリック製のソフトトップとなっています。歴史を振り返れば、100年以上前に始祖となった自動車たちは、みなオープンボディでした。そして、その前身である馬車のように日よけは、骨組みに布を張った幌が利用されていました。現在は金属製の開閉可能なルーフを作ることができますが、伝統という目線でいえば、ファブリックのソフトトップの方がトラディショナルな存在と言えるでしょう。また、ソフトトップの車両は、「クーペの屋根を開け閉めできる」ものではなく、独特なルーフラインを持っています。つまり、ソフトトップだからのルックスです。それが伝統を感じさせ、エレガントさの源泉となるのでしょう。



新型のコンチネンタルGTコンバーチブルは、リヤ部分にルーフを収納するため、まるでセダンのようなフォルムとなっています。



コンチネンタルGTのルーフラインは、ボディ後端に向かって大きな弧を描きます。コンバーチブルとは異なるルーフラインです。



コンチネンタルGTコンバーチブルは、走行中であっても時速50km以下であれば、そのままソフトトップの開閉を可能とします。



4座のオープンは、前後に大きな空間が開くため、強度を保つのが難しい。コンチネンタルGTコンバーチブルは、そんな常識を覆しています。

コンバーチブルの難しさはどこにある？

ルーフのあるクルマをコンバーチブルにしようとしたときの最大の課題は、ボディ剛性の確保です。クルマは、ボディ下側とルーフをピラーでつなぐという立体的な構造で、高い剛性を確保しています。ところが、そのフルを外すと、ボディの剛性は一気に失われます。何も対処しないと、コーナーを曲がるときに車体が捻じれて、後輪の片方が浮いてしまうこともあるとか。そのため、ほとんどオープンカーは補強のために数百kg単位の重量増が避けられません。つまり、いかに補強を軽く済ませるかクルマの開発の腕の見せ所。コンチネンタルGTコンバーチブルは、先代よりも20%も軽く、剛性も5%高めることに成功。オープン走行の楽しさと快適性、素晴らしい運動性能のすべてを実現化します。

快適性を実現する工夫の数々

コンバーチブルのルーフを開け放って走行するのに向いているのは夏以外のすべてのシーズンです。なぜなら、夏の直射日光と暑さだけは、オープンカーでは、どうにも防ぐことができないから。逆に寒さや風は、クルマの工夫でどうにでもなるのです。そのためコンチネンタルGTコンバーチブルには、快適性を守る機能が数多く装備されています。シートバックからドライバーの首元に温風を送るネックウォーマーやステアリングホイールヒーター、シートヒーター、アームレストヒーターなどが、ドライバーの快適性を支えます。



ステアリングホイールに備わったヒーター機能が指を暖めることで、ドライバーが運転に集中できるようにサポートします。



シートバックから温風をドライバーに送るネックウォーマーは新設計となり、旧型よりも静粛性と暖める能力が向上しています。

豊富なノウハウと高い技術がソフトトップを実現

ソフトトップを量産車に採用するには、豊富なノウハウと高い技術が必要です。布のルーフと樹脂のウエザーストリップを何度も折り曲げながら、いつまでも雨水の侵入を防ぐためのノウハウ。金属製のルーフと同様の高い静粛性を布製のルーフで実現する技術。そしてスムーズな開閉。そうした技術の結集がコンチネンタル



最初にソフトトップの後端の一部が折れて、立ち上がります。



続いてルーフを収納するトノカバーが大きく開きます。



ルーフが畳まれてゆきます。畳み方は一般的なZ字型です。



畳まれたルーフが収まり、トノカバーが閉まれば終了。